

伊丹市 文化財ボランティアの会

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課内（伊丹市千僧1-1-1）



INDEX

- ・令和6年度第2回市民ガイドレポート ----- P1
- ・研修サロン活動報告
- 識者サロン第1回『伊丹の交通史』 ----- P2
- 屋外研修『大阪くらしの今昔館』見学会と
『摂津名所図会堂島穀耀耀』 ----- P3
- 屋外研修『宝塚から中山へ～古墳と寺社巡り～』 - P4
- ・町の小さな文化財シリーズ
　　第28回「こいこいと…」幼稚園近くの鬼貫句碑 -- P5
- ・学習支援班 紙芝居公演
　　第3回『伊丹の民話を聞いてものづくり体験をしよう』 ----- P6
- ・活動記録と今後の予定 ----- P7



伊丹市内ボランティアガイドのご案内

伊丹市内にある文化財(史跡)のガイドをご希望される方は

伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課 文化財担当まで 電話(☎:072-784-8090)

または文化財ボランティアの会にメール(ibunbora@yahoo.co.jp)でお申込みください。

【ガイドコース】

- Aコース：有岡城跡・荒村寺・市立伊丹ミュージアム(旧岡田家・旧石橋家)・猪名野神社など
- Bコース：猪名野神社・伊丹緑道・白洲屋敷跡・辻の碑・伊丹廢寺跡など
- Cコース：昆陽池・東天神社・山陽道(西国街道)・昆陽寺など
- Dコース：鴻池神社・慈眼寺・鴻池稻荷祠碑・容住寺・天日神社など
- Eコース：御願塚古墳・都市景観形成建築物・須佐男神社・南野神社など
- Fコース：有岡城跡・桑津神社・加茂神社・称名寺・春日神社・伊丹スカイパークなど

歴史散歩 「御願塚古墳とその周辺を巡って」

9月28日は数日前とは違い、曇り空で涼しいウォーキング日和でした。参加者は8名、2組のご夫婦と会員のご友人、そして広報伊丹を見て遅れて参加された男性、会員の方2名でした。

阪急稻野駅に予定より早く参加者が集合しましたので、15分早めに始まりました。

稻野駅横の公園で、開始のご挨拶の後、住宅地を抜けて最初の御願塚古墳すぐに到着。周りは住宅に囲まれ、いつも通っていた道沿いにあります。こんな所にあったのかと、ちょっとびっくりしました。

御願塚の名前の由来は、周辺の4つの塚(古墳)と合わせた呼び名で、元々は五ヶ塚であったようですが、周辺の塚は消滅したとのことで、とても残念です。末次会長のお話では、全国に16万近くの古墳があり、兵庫県はそのうちの18,707の古墳があり、全国で第1位の古墳県とのことです。御願塚古墳はとても整備された古墳で、濠の上には歩道があり、途中には「造り出し」と呼ばれる祭祀場がありました。ここから円筒埴輪が2列に並んで発見されたとのことです。古墳の周囲を皆で一周しました。短い距離ですが、木が鬱蒼と生い茂り、はるか昔の古墳時代の空気を少し感じることが出来ました。墳頂部にある南神社を参拝して、内部の写真を植田さんに見せていただきました。

次に御願塚都市景観形成建築物として、籠(やの)家住宅を訪問いたしました。令和6年3月6日付で国登録有形文化財となったお屋敷で、伝統的な農家住宅の構えとのことです。当初は、外からだけの見学の予定でしたが、2日前に内部見学が許され、中庭にて庭や家屋についてのお話を当主の方からお聞きすることが出来ました。とても凝った造りのお屋敷で、蔵の扉でその壁の厚みに驚き、雨どいや瓦にも模様が入っている等、大変貴重な文化財でした。国登録有形文化

財に指定されてから初めての見学者だったとのこと、伊丹市文化振興課の中畔主幹に感謝です。

次の見学スポットは須佐男(すさのお)神社で、籠家住宅の裏口、東に向かって段差がついた屋根や大黒様の飾りなどを見ながら歩くと、まっすぐ西に赤い立派な鳥居が視界に入り、ほどなく須佐男神社。この鳥居は両部鳥居と言つて、広島宮島にある厳島神社と同じ形式の鳥居だそうで、伊丹では他にないそうです。氏子代表の方にジュースなどをふるまつていただきましたが、「本殿の近くでは飲まないでください」とのこと。なぜなら、神社のご祭神須佐男命は荒神様なので、障(さわ)りが無いようにとのことでした。その後、拝殿へ入れていただきました。ここでもやはり障りがあるので、写真撮影は禁止でした。ここでは、椅子に座ってゆっくりお話を聞くことが出来ました。本殿は覆屋の中にあるため、保存が良く小さながらも極彩色で大変美しく、建立当時の面影を残していました。

次は、了福寺と南野神社です。途中、信号で先頭とはかなり離れてしましましたが、何とか追いつき、了福寺へ到着。ここでは、本堂が閉じていて、説明をしていただくだけでした。本尊の阿弥陀如来坐像は、座高82cm、江戸時代の作とか、見てみたかったです。隣の南野神社へ移動して、ガイドを聞きしました。この神社は、もとは須佐男神社という名前でしたが、1945年に少彦名(すくなひこな)神社と合祀して、神社名を南野神社と改めたそうです。

今回の歴史散歩は、籠家住宅に入れていただき、須佐男神社の本殿を間近で見せていただき、見どころ満載となりました。参加者の皆様もきっとご満足いただけたのではないかと思います。

(武田 記)

令和6年度市民ガイドの予定

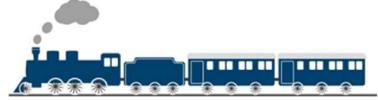
第3回 2月22日(土) 「伊丹空港そばの弥生遺跡」

上記の内容は予告なく変更する場合があります。予めご了承下さい。



研修サロン班活動報告

新企画 識者サロン 第1回 『伊丹の交通史』



この度、外部講師によるご講演で会員の知識を増やそうという狙いで、研修サロン班の新企画“識者サロン”を開催した。

8月1日(木)、スワンホール第6会議室で、細尾哲也氏（伊丹公論編集委員、パン作りで地域貢献するパンダチーム代表、ことば蔵漫画部倉田組部長ほか多方面でご活躍中）を迎えて、「伊丹の交通史」について語って頂いた。参加会員15名で大変好評であった。



一講座内容を要約しますと下記の通り—

① 伊丹に軍用線があった (JR)

野里（宝塚市）加代・久代（川西）大野（伊丹）にまたがる地域に、大阪陸軍造兵廠（しよう）川西補給廠があり、また伊丹の北野1丁目に大阪陸軍獸医資材支廠長尾分廠があり、ホームがあった。それらを運ぶ為に昭和20年に現在のJR中山寺駅から軍用線が急遽作られた。そして10月に撤去されている。

② 阪急伊丹駅は何故北西を向いているのか？ (阪急)

「次は伊丹、伊丹、急行の通過待ちを致します」阪神淡路大震災で崩壊する前の阪急伊丹駅は通過駅のように相対式ホーム（2面3線）になっていた。これは将来宝塚へ延伸計画であったことを物語る。また実際は急行停車駅として計画されていた。一説には昆陽池あたりに駅が出来ると言われていた？

③ 県道尼宝線は直線区間が多くカーブも滑らかなのは何故か？ (阪神)

県道尼宝線は尼崎と宝塚を結ぶ道路である。元々は武庫川河川敷の改修工事で出来た東側の土地に、大正12年に宝塚、阪神出屋敷を結ぶ路線として、宝塚尼崎電気鉄道（通称、尼宝電鉄）が免許を取得していた。そしてその路線に目をつけた阪神電鉄が出資し、阪神尼崎と結ぶ計画をした。また伊丹市街地を通るルートに変更になった。そこで阪急は阪急伊丹と宝塚を結ぶ計画をして、阪神に対抗しようとした。宝塚は阪急が開拓したという自負があったかもしれない？

④ 守りたい市バスのある風景を守る (伊丹市営バス)

伊丹市交通局は今年で創業75年を迎えた。関西で公営バスを走らせるのは京都、神戸、高槻各市と本市だけ。その歴史は昭和24年（1949）2月電気バス4台により、当時の阪急伊丹駅から昆陽里、西野、荒牧、緑ヶ丘を経て同駅に戻る延長約16kmの1系統で営業を開始した。電気バスの運行は3年間だけで、ガソリン車併用時代を経て、全車両がディーゼル車に移行した。現在ではこの路線を93台のバスを使って毎日走り、年間延べ14752千人（平成29年度）を運んでいる。平成11年（1999）に

初めて女性ドライバーが誕生した。関西の4公営バスの中で女性ドライバーの比率が2%を超えるのは伊丹市だけである。

(参考文献)「兵庫の鉄道廃線を歩く」ことば蔵



【講師について】

- ・今回の講師の細尾哲也氏との出会いは、伊丹市立市民まちづくりプラザ主催の「第2回まちプラ交流カフェ（2022年11月23日）」。伊丹市文化財ボランティアの会について概要を説明したり、参加ボランティア団体に文化財クイズを披露した時でした。その後、共通の話題のユースホステル活動についても盛り上りました。
- ・鉄道については、伊丹ミュージアムの伊藤忠章学芸員が筋金入りの鉄道マニアです。過去に、伊丹市内のジオラマを作成し、Nゲージを走らせたり、JR中山駅から陸軍の引き込み線があった道をガイドしてもらったり、養成講座では伊丹の乗り物の歴史講座を担当して頂いたこともあります。
- ・鉄道マニアには「撮り鉄」「音鉄」「乗り鉄」「車両鉄」「模型鉄」「収集鉄」「時刻表鉄」「駅鉄」「廃線鉄」「線路鉄」「保安鉄」「歴史鉄」等多岐にわたります。今回の細尾氏はさしつけ「歴史鉄」でしょうか？
- ・暑さがおさまれば、今回紹介された所を巡ってみると印象が深いものになるでしょう！

(酒井正憲 記)

研修サロン班活動報告 屋外研修

『大阪くらしの今昔館』見学会と『摂津名所図会堂島穀耀（こめあきない）』

今年の異常気象で熱中症警戒アラートが解けない中、屋外研修を『大阪くらしの今昔館』の案内と、拙いですが江戸時代末の大坂の町と庶民の暮らし文化を解説させていただきました。会場内はエスカレーターで10階展望フロアに上がり、9階近世のフロアに設置された天保時代（1830～1844）の大坂の町なみを俯瞰していただき、下って実際のお店（風呂屋、小間物屋、薬屋など両側町の店と裏通りの長屋など）を見てまわります。

架空の町とはいえ、各々実際にあったお店を資料に基づき研究者が設計、実績のある数寄屋大工が建てました。からもの屋では摺り上げ戸や枢（くろろ）、無双窓を動かし、神社の屋根の檜皮葺の感触を体感していただくなどしていただきました。

8階近代のフロアは巨大な「大阪市パノラマ地図（大正13年）」の光床（フロアパネル）の周りに、西洋館が建ち並ぶ「川口居留地」、近代化が進む「北船場」、モダンな長屋の「大大阪新開地」など、六景の精密な住宅地の模型があり、明治以降の大坂の変化をとらえることができます。9階入り口傍の壁面に白と茶色でいろんな絵が描かれています。江戸時代に出された「守貞謾稿（もりさだまんこう）」、「街能囃（ちまたのうわさ）」に描かれた東西比較の物尽くしの絵で、他にも「浪華名所獨案内」「納涼風俗図」などで楽しめます。



大阪くらしの今昔館（大阪公式観光情報より抜粋）

北区天神橋6丁目の大坂市立住まい情報センタービル内。

江戸時代から明治・大正・昭和の大坂の町と住まいの移り変わりが体験できる住まいのミュージアム。

最大の見どころは、江戸時代後期、天保のころ（1830～1844）の「大坂」を細部にわたる考証により復元した町並みと、そこで時間帯によって町の様子が変化する仕掛け。

(編集担当 記)

今回、同行した先輩会員のAさんから、10階に上がるエレベーターの壁面に大きく描かれた図について「作者は誰?」との質問があり、答えられませんでした。もとより数秒程度の上昇中にチラリ見る程度で、間近すぎて部分を見るだけなのですが、お客様には「このように残された絵が大切な資料」と言ってきたのに図の名称も知らなかった。その場は知りませんと答え、調べて返事することとして、後日会場でじっくり見て回りやっと気がつきました。有名な「摂津名所図会 堂島穀糴糶 (こめあきない)」でした。

た。部分的であったとは言え、随分なことで恥ずかしい限りでした。学芸員にも確認し、間違いなく「立体的に見せるように加工されているようだ」とのことであった。300年以上前の17世紀末に開かれた堂島米会所は世界最初の先物取引市場と近年注目されており、天下の台所であった大坂の活況を示すとのことで掲げられたのかも知れません。質問いただいたAさん、知る機会をいただけてありがとうございました。



10階フロアへのエスカレーターと壁面



本渡章
摂津名所図会を読む（部分）

(村 正司 記)

研修サロン班活動報告 屋外研修 宝塚から中山へ～古墳と寺社巡り～

10月10日（木）午前9時半集合。7月実施のところ熱中症警戒アラートの為延期となり、10月3日実施予定が雨ということで、3か月振りに行ってくることができました。当日は抜けるような青空で、歩いていても気持ちがよかったです。本郷恵子さんのご案内で、新人3名を含む12名が探索しました。宝塚は六甲山系と長尾山山系の麓に位置して、数多くの歴史遺産があり貴重な古墳が多く残っています。

最初に訪れたのは推古18年（610）推古天皇創建の**壳布（めふ）神社**で、祭神は下照姫神（したてるひめのかみ）で食物と衣服の神様を祀っています。長い階段の上がった先にあり、大きなどんぐりがたくさん落ちていました。



壳布神社



中山莊園古墳

少し歩いて中山莊園古墳に行きました。
ここは古墳時代終末期7世紀中頃に築かれ
たと考えられている八角形の珍しい形の古墳です。八角形の古墳は7世
紀中期以降の天皇陵に限られていて、全国的に見ても極めて珍しく、宝
塚市域でこのような形をした古墳が造られたのか分かっていません。山
の中腹の斜面に造られたような感じでした。

次に行ったのは西国三十三番所の第24番札所の中山寺です。何十年かぶりのお参りで、寺域はきれいになっており、上までエスカレーターで行くことができました。境内には安産手水鉢として舟形石棺がありました。

また近くには白鳥塚古墳があり、横穴式石室で内部に入ることができます。家形石棺が安置されていて、丁寧に造られていて豪族の墳墓であると考えられます。

しばらく住宅街を歩いて、中筋山手東古墳群に行きました。6世紀後半に築かれた群集墳で、私有地の中にあり、中に入ることはできませんでした。すぐ近くにまで住宅が迫っていました。山の中腹なので、古墳が造られた時代には大阪平野が一望できる所だったことがわかります。



白鳥塚古墳

最後に中筋八幡神社に行きました。室町時代建立で誉田別命（応神天皇）が祀られています。

兵庫県は日本で古墳が一番多くある所で、古墳時代といわれる3世紀半ばから7世紀にかけて色々な形があり、石室等大きな石を加工して、すべて人力で造られています。古代の人の技術に感心をしました。今回の屋外研修は上り下りもありましたが、宝塚のモダンな住宅街にこのようにたくさんの古墳があることを知り、歴史のある土地であることがわかりました。このまま保存されることを願います。また宝塚のマンホールがスミレの模様であることも知ることができました。

（徳本祐子 記）

研修サロン班 活動報告		
■神崎駅から神崎橋	■大阪くらしの今昔館	■宝塚から中山へ 古墳と寺社巡り
9/ 5（木）勉強会 10/17（木）屋外研修	9/19（木）屋外研修	10/10（木）屋外研修

町の小さな文化財 第28回

「こいこいと…」幼稚園近くの鬼貫句碑（鈴原町1丁目）

鈴原町1丁目の新伊丹交番敷地内に小さな句碑がある。句碑は鬼貫が8歳のときに詠んだと言われる「こいこいといへど蟻はとんでいく」が印されている。

句碑としては小さめの自然石に分かりやすい字体で彫られた微笑ましい句碑である。裏面には昭和55年、近所の俳句を嗜む方が建立したことが印してある。また句碑が幼稚園（王たるキリスト教幼稚園）近くの場所に建てられており、鬼貫8歳の句碑にふさわしい場所の選択だろう。



王たるキリスト教幼稚園（昭和25年創立、梅ノ木5丁目）、および王たるキリスト教会を戦後設立するに当たって、用地確保に岡田利兵衛氏が尽力されたことが伝えられている。昭和20年代末の頃、飛行場は米軍管理下にあり、伊丹市内にも進駐軍将校の家族用に接収された民間住宅があった。当時幼稚園児だった人から聞いた話であるが、幼稚園の何かのイベントのときに校庭に進駐軍のヘリコプターが着陸したそうである。ものすごい砂ほこりがたったので記憶しているとのこと。現在では到底考えられないような話である。



（松田 記）

ことば蔵での「伊丹の民話を聞いてものづくり体験をしよう」も今回で3回目となりました。ラジオ体操終了後の9時45分からの第1部は「野間の一本松といたずら狐」と「伊丹の蛍」の二本立てのデジタル紙芝居です。ウレタンの座布団で前の方に座る子、後方の設置された椅子に座る親子など、赤ちゃんを含めて35名がいたみ民話会メンバー8人による紙芝居を熱心に見てくださいました。



その後、ビニールを張った机と椅子を設置し、第2部は事前申し込みが必要でしたので、10時30分から開始、先着20名の子ども(定員)と15名の保護者が「カタコト降りるキツツキ人形」作りに参加しました。見本のアカゲラとクマゲラを子どもに配布し、長い45センチの棒の上から二つのゲラを落としていくと、棒を突きながら降りていきます。

こんなのを作るのかと、目を輝かせながら見ていた子どもたちも今からが本番です。縁取りだけのゲラにマジックで色を塗り、自分だけのゲラ作りです。塗り終わったら、丸めた針金を塗ったゲラに挟み、両面テープで貼り付けます。

丸めた針金を触り過ぎると、形が崩れてしまいます。「ここはあまり触らないでね」と注意すると、腫れ物に触るように大事に扱ってくれます。20人それぞれ違ったゲラができました。ひとつとして、同じ物はありません。子どもたちは棒の上から見本のゲラと自分のゲラを落としながら、遊んでいました。棒を立てている土台の部分に自分の物だと分る印をつける子もいました。

小学校の低学年ぐらいの子どもが多かったのですが、充実した楽しい時間でした。

(松山 記)



活動記録(8月~10月)

【定例会】

8/13(火)・9/10(火)・10/8(火)

【史跡ガイド】[□、○人]はガイドコースと参加人数

9/26(木) [A、40人]、9/28(土) [第2回市民ガイド 御願塚古墳周辺と南部地区、8人]、

10/5(土) [A、12人]、10/19(土) [A、20人]、10/26(土) [A、12人]、

【旧岡田家住宅・酒蔵 団体ガイド】

9/12(木) 20人、10/11(金) 20人、10/26(土) 20人、

【研修サロン班】活動記録詳細はP2~P5に記載しています。

【学習支援班】例会 8/20(火)、9/18(火)、10/15(火)

対外活動 8/21(水) ことば蔵交流センター(デジタル紙芝居・工作)

【旧岡田家住宅・酒蔵 ガイド当番】9月15日から12月1日まで実施中

今後の予定(11月～1月)

【定例会】

11/19 (火)・12/10 (火)・1/14 (火)

【史跡ガイド】

11/9 (土) [D、25人]、11/20 (水) [F、13人]、[A、13人]、

11/23 (土) [文化財保護啓発事業・養成講座 A、15人]、11/30 [A、22人]、

12/6 (金) [C、15人]、

【学習支援班】对外活動 12/8 (日) ことば蔵交流センター (デジタル紙芝居・工作)

【旧岡田家住宅・酒蔵 ガイド当番】

令和6年9月15日から12月1日まで実施中

私たちと一緒に 文化財のガイドをしてみませんか

伊丹市内には有岡城や昆陽寺など、多くの文化財が残されています。当会は、伊丹市を訪れた方々に郷土の歴史や文化の魅力を伝える活動をしています。また、伊丹の民話をデジタル紙芝居で紹介する学習支援班や会員相互でパソコンを学ぶ分科会など、様々な分野で楽しみながら知識を広げています。ぜひ、私たちの仲間になって活躍の場を見つけて下さい。

なお、会員には正会員と準会員があります。今年は11月に開催される文化財ボランティア養成講座（全4回）を受講・修了すれば正会員となります。

■文化財ボランティア養成講座についてのお問い合わせは

伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課 文化財担当

（☎072-784-8090）までご連絡ください。



会報(火曜会通信)はWEB版でご覧ください

伊丹市文化財ボランティアの会は、わが町伊丹の文化財を多くの人達に紹介し、その価値を後世に引き継いでいく活動をしています。

会報(火曜会通信)は、その活動を記録し、残していく役割を担っています。これまでの会報全てがホームページに保存されています。いつでもパソコンやスマホからご覧いただけますので、ぜひWEB版をご利用下さい。

右の二次元バーコード又は下記URLからアクセス出来ます。

URL : <https://itami-bunbora.main.jp/tuusin/tuushinmokuji.html>

